

# Gaussian process の標準表現に関する 一結果

熊大 理 櫃 田 倍 之

(Masuyuki Hitsuda)

$(B, Y) = \{B(t), Y(t); t \in [0, 1]\}$  を Gaussian process とする. ここで,  $Y(t) = \int_0^t y(u) du$ ,  $E \int_0^1 |y(u)| du < \infty$ ,  $E y(u) = 0$  とする. 更に  $B_t(B) = \sigma\{B(s); s \in [0, t]\}$ ,  $B_t(Y) = B_t(y) = \sigma\{y(s); s \in [0, t]\}$  とすると,  $B = \{B(t); t \in [0, 1]\}$  は  $B_t(B, y) = B_t(B) \vee B_t(y)$  に関して Brownian motion であると仮定する. 以後,  $H_t(x) = \text{linear span by } \{x(s); s \leq t\}$  と示すことにする.  $t=1$  のときには省略することにする ( $H(x) = H_1(x)$ ).

次の問題を考察する.

$$(0.1) \quad X(t) = B(t) + Y(t), \quad t \in [0, 1]$$

の標準表現を求めよ.

現段階では, この問題に対して完全な解答は得られていない. 一つのアプローチと部分的な結果を紹介したい.

## §1. Lemmas

最初の Lemma は innovation theorem として知られており, 所期の問題をより具体的に考察するための足掛りである。

Lemma 1. (Kailath-Shiryayev). (0.1)

で与えられた Gaussian process  $\{x(t); t \in [0, 1]\}$  に対して,

$$(1.1) \quad \bar{B}(t) = x(t) - \int_0^t \hat{y}(u) du, \quad t \in [0, 1]$$

但し  $\hat{y}(u) = E[y(u) | B_u(x)]$ , は  $B_t(x)$ -Brownian motion である。すなわち,  $\{\bar{B}(t); t \in [0, 1]\}$  の法則は Brown 運動と同じであり,

$$E[\bar{B}(t) | B_s(x)] = \bar{B}(s) \quad a.e. P, \quad t \geq s,$$

が成立する。

Remark. この Lemma により Gaussian process  $X = \{x(t); t \in [0, 1]\}$  の“1つの” innovation は, Brownian motion であることが判明する。実際 Lévy-Hida の標準表現を得ることは,  $\{B_t(x); t \in [0, 1]\}$  に関する Gaussian martingale を列挙する = と同等であり,  $\{\bar{B}(t); t \in [0, 1]\}$  がその martingale の 1つになるのである。

Corollary. (I) (0.1) による  $X = \{x(t)\}$  は次のように独立に分解できる:

$$(1.2) \quad X(t) = \bar{B}(t) + \int_0^t \hat{y}_1(u) du + \int_0^t \hat{y}_2(u) du, \quad t \in [0, 1],$$

ここで,  $\hat{y}_1(u) \in H_u(\bar{B})$ ,  $\hat{y}_2(u) \in H(\bar{B})^\perp \cap H_u(X)$ ,  $u \in [0, 1]$ .

更に,

$$(1.3) \quad E \left[ \int_0^1 |\hat{y}_1(u)| du + \int_0^1 |\hat{y}_2(u)| du \right] < \infty.$$

$$(II) \quad H_t(X) = H_t(\bar{B}) \oplus H_t(\hat{y}_2), \quad \forall t \in [0, 1].$$

(III) 積分核  $k = k(u, v)$  が存在して

$$\hat{y}_1(u) = - \int_0^u k(u, v) d\bar{B}(v)$$

と書ける。

Proof.  $\hat{y}_1(u) = E[\hat{y}(u) | \mathcal{B}_u(\bar{B})]$  とおく。

Gauss の定理より  $\hat{y}_1(u) = P_u^{\bar{B}} \hat{y}(u) = P_u^{\bar{B}} y(u)$

$$\hat{y}_1(u) = P_u^{\bar{B}} \hat{y}(u) = P_u^{\bar{B}} y(u)$$

が成立する。但し,  $P_u^{\bar{B}}$  は  $H_u(\bar{B})$  への orthogonal projection である。この projection は  $u$  毎に異なっても

$$\hat{y}_1(u) = P^{\bar{B}} \hat{y}(u) \quad \text{但し } P^{\bar{B}} = P_1^{\bar{B}},$$

と書いてもよいことに注意してある。これは,  $\hat{y}(u)$  が

$H(\bar{B}) \ominus H_u(\bar{B})$  と直交することからわかる。  $\hat{y}_2(u) = \hat{y}(u) - \hat{y}_1(u)$  が  $H_u(\bar{B})$  更に  $H(\bar{B})$  と直交することから明らかである。

従って (1.2) の分解が示された。(1.3) は明らかであろう。

(II) も 分解 (1.2) から直ちに言える。

(III) は  $\hat{y}_1(\omega) \in H_u(\bar{B})$  であり, Wiener 積分で表わされることから明らかである。

この Lemma の事實は Stricker (1983) に主張されているが, その証明はいまこの冗長である。

さて, 一般の Gauss 過程  $X = \{X(t) : t \in [0, 1]\}$  が与えられたとき, その linear span  $H(X)$  または  $H_t(X)$  を確定することは難しい。Brown 運動  $\{B(t) : t \in [0, 1]\}$  については, Wiener 積分の全体であること, つまり

$$H(B) = \left\{ \int \alpha dB : \alpha \in \mathcal{L}^2[0, 1] \right\},$$

$$H_t(B) = \left\{ \int \alpha dB : \alpha = P_t \alpha, \alpha \in \mathcal{L}^2[0, 1] \right\},$$

(但し,  $P_t$  は通常 projection  $P_t \alpha(u) = 0, u \geq t,$   
 $= \alpha(u), u < t$

を示す) はよく知られているが, これと同様のことが, 次の性質を持つ Gauss 過程に関して言える:  $X$  の covariance function  $E \Gamma_X(t, s) = E[X(t)X(s)], t, s \in [0, 1],$  とするとき,  $\Gamma_X$  が  $\Gamma_B$  と次の意味で同値であるときである。

Definition. 2つの covariance functions

$\Gamma_{X_1}$  と  $\Gamma_{X_2}$  が ある定数  $C > 0$  に対して,  $C \Gamma_{X_1}(t, s) - \Gamma_{X_2}(t, s)$

が非負値であるとき,  $\Gamma_{X_1}$  は  $\Gamma_{X_2}$  を dominate するという: 記号  $\Gamma_{X_1} > \Gamma_{X_2}$ .  $\Gamma_{X_1} > \Gamma_{X_2}$  かつ  $\Gamma_{X_1} < \Gamma_{X_2}$  であるとき, Gauss 過程  $X_1 = X_2$  (または covariance  $\Gamma_{X_1}$  と  $\Gamma_{X_2}$ ) は 同値 であるという: 記号  $\Gamma_{X_1} \sim \Gamma_{X_2}$ .

Lemma 2 (Aronsjain 1950).  $\Gamma_{X_1} > \Gamma_{X_2}$  ならば, それらを両主核と可る Hilbert 空間  $\mathcal{H}(X_1)$ ,  $\mathcal{H}(X_2)$  の間に包含関係  $\mathcal{H}(X_1) \supset \mathcal{H}(X_2)$  が成立する. 特に  $\Gamma_{X_1} \sim \Gamma_{X_2}$  ならば  $\mathcal{H}(X_1) = \mathcal{H}(X_2)$ .

この Lemma 2 の系として,  $\Gamma_{X_1} \sim \Gamma_{X_2}$  であるとき,

$$\mathcal{J}: \Gamma_{X_1}(t, \cdot) \mapsto \Gamma_{X_2}(t, \cdot)$$

は  $\mathcal{H}(X_1)$  から  $\mathcal{H}(X_2)$  の上への 1:1 線型写像  $\mathcal{J}$  に拡張される. このことと  $\mathcal{H}(X_i)$  と  $\mathcal{H}(X_i)$  の間の自然な対応

$$X_i(t) \mapsto \Gamma_{X_i}(t, \cdot) \quad , \quad i=1, 2$$

が 1:1, onto に拡張されることから, 次の Lemma 3 がわかる:

$$\begin{array}{ccccccc} \mathcal{H}(X_1) & & \mathcal{H}(X_1) & \xrightarrow{\mathcal{J}} & \mathcal{H}(X_2) & & \mathcal{H}(X_2) \\ \downarrow & & \downarrow & & \downarrow & & \downarrow \\ X_1(t) & \longleftrightarrow & \Gamma_{X_1}(t, \cdot) & \longleftrightarrow & \Gamma_{X_2}(t, \cdot) & \longleftrightarrow & X_2(t) \end{array}$$

Lemma 3 (Hitsuda 1984).  $\Gamma_X \sim \Gamma_B$  を仮定すると, 対応  $B(t) \mapsto X(t)$  が  $\mathcal{H}(B)$  から  $\mathcal{H}(X)$  への

1:1かつ onto の線型写像  $S$  に拡張される。

Definition. 上の Lemma で定めた  $S$  を用いて  $S(\int_0^1 \alpha dB)$  を  $\int_0^1 \alpha dX$  と書く。  $\alpha \in \mathcal{L}^2[0,1]$  に対して Wiener 型積分  $\int_0^1 \alpha dX$  が定義される。

Lemma 4.  $H(X) = \{ \int_0^1 \alpha dX : \alpha \in \mathcal{L}^2[0,1] \}$   
 更に,  $H_t(X) = \{ \int_0^t \alpha dX : \alpha = P_t \alpha \in \mathcal{L}^2[0,1] \}$ .

Remark. 各  $t$  に対して  $S$  は  $H_t(B)$  を  $H_t(X)$  の上に 1:1 に移す:  $S(H_t(B)) = H_t(X)$ .

Lemma 5 (Hitsuda 1973).  $X = \{X(t); t \in [0,1]\}$   
 $Y = \{Y(t); t \in [0,1]\}$  を 2つの独立な Gaussian processes とする。 各  $t \in [0,1]$  に対して,

$$H_t(X+Y) = H_t(X) \oplus H_t(Y)$$

となるための必要十分条件は  $H_t(X) \cap H_t(Y) = \{0\}$ ,  $t \in [0,1]$ , となることである。 二二で,  $H_t(X)$  (resp.  $H_t(Y)$ ) は, 両生核  $\Gamma_X(u,v)$  (resp.  $\Gamma_Y(u,v)$ ),  $(u,v) \in [0,t] \times [0,t]$ , を持つ Hilbert 空間とする。

最後の Lemma 5 の証明は  $\Xi$  に  $\Gamma$  を与えたいが、  
 $\Xi$  までの情報が完全に分離されたから、process が発展する  
 ための条件である。

## § 2. 標準表現と応用

本節において

$$X(t) = B(t) + Y(t), \quad t \in [0, 1]$$

$\Xi(0, 1)$  において与えた Gaussian process とする。この process  
 について現在までに判明していること  $\Xi$  列挙する。まず、  
 前節の Lemma 5 に対応して次の Proposition が成立する。

Proposition 1.  $B$  と  $\Gamma$  が独立であるとき、

各  $t$  に対して

$$(2.1) \quad H_t(X) = H_t(B) \oplus H_t(\Gamma)$$

であるための必要十分条件は、各  $t > 0$  に対して

$$(2.2) \quad \mathcal{N}_t(\Gamma) = \{a \mid a(s) = \int_0^s \alpha(u) du, \text{ かつ} \\ \int_0^t \alpha^2(u) du = \infty\}$$

である。

Proof.  $\mathcal{N}_t(B) = \{a \mid a(s) = \int_0^s \alpha(u) du,$

$\int_0^t \alpha^2(u) du < \infty$  } であるから, Lemma 5 の条件をみた

すためには, (2.2) が成立しなければならない。なお,

$Y(t) = \int_0^t y(u) du$  と書けることにより,  $\mathcal{H}_t(Y)$  の元  $a$  が絶

対連続 ( $\exists \alpha \in L^1[0, t], a(s) = \int_0^s \alpha(u) du$ ) であることは

明白であろう。

例.  $Y(t) = \int_0^t \alpha_0(u) B_1(u) du$ , 但し  $\alpha_0 \in L^2[a, b]$

$0 \leq a < b \leq 1$ ,  $\alpha_0 \in L^1[0, 1]$ , 更に  $B_1 = \{B_1(t)\}$  は  $B$  と独立  
な Brown 運動とすれば (2.2) をみたす。このような

$\alpha_0$  が存在することは簡単にわかる。このとき,  $X$  は

(0.1) の型に標準表現されて, 重複度 2 の Lebesgue ス  
ポクトル測度を持つことになる。

上の Proposition 1 の対偶として,  $\mathcal{H}_t(B) \wedge \mathcal{H}_t(Y)$

がある  $t \in [0, 1]$  に対して non-trivial であれば  $H_t(X)$

$\subsetneq H_t(B) \oplus H_t(Y)$  となり,  $(B, Y)$  の情報が  $X = B + Y$

により忠実に伝達されないことになる。

Proposition 2.

$B$  と  $Y$  が独立であるとき,

次の命題 (A) と (B) は同値である：

$$(A) \quad \mathcal{H}_t(B) \cap \mathcal{H}_t(I) = \{0\} \quad t \in [0, 1]$$

$$(B) \quad \overline{B} = B.$$

Proof. (A)  $\Rightarrow$  (B) は Prop. 1 よりほとんど明らかであろう。逆に (A) の否定は  $\mathcal{H}_t(x) \subsetneq \mathcal{H}_t(B) \oplus \mathcal{H}_t(I)$  がある  $t \in [0, 1]$  で成り立つことを示してあり、 $\overline{B} = B$  であることが直ちに往う。

## REFERENCES

- N. Aronsjain (1950), Theory of reproducing kernels.  
Trans. Amer. Math. Soc. 68, 337-404.
- T. Hida (1960), Canonical representations of Gaussian processes and their applications.  
Mem. Coll. Sci. Univ. Kyoto A 33, Math. 109-155.
- M. Hitsuda (1968), Representation of Gaussian processes equivalent to Wiener process.  
Osaka J. Math. 5, 299-312.
- M. Hitsuda (1973), Multiplicity of some class of Gaussian processes.  
Nagoya Math. J. 52, 39-46.
- M. Hitsuda (1984), Wiener-like integrals for Gaussian processes and the linear estimation problems.  
Advances in Probability (Ed. by M. Pinsky ; Dekker Pub.)
- Sh. R. Liptzer and A. N. Shiryaev (1974), Statistics of Stochastic Processes. (Russian) (Nauka). (English Version: Springer).
- C. Stricker (1983), Semimartingales gaussiennes - application au problème de l'innovation.  
Z.W. 64, 303-312.

総論と17

飛田武幸 - 櫃田倍之, ガウス過程 — 表現と応用 (紀伊國

屋書店 1976) がある。